

訓練センター組合員意見交換会を開催！



11月9日訓練センター組合員による意見交換会を東京地本会議室で行いました。冒頭仁戸田部会長から今日で意見交換は5回目となる。今回は運輸車両部会、現役の運転士指導員、元指導員も参加。業職種別専門分野の特性を活かし、部会の垣根を越えて安全を中心とした議論を深めていきたい。八王子地本内、管理者からのパワハラが社員の暴力行為にすり替わり2重処分が出される事象が発生。現在、皆さまから激励を受けて本人も励みになっている。不当な処分撤回、名誉回復を目指していく。また、今後も引き続き決算勉強会もWEBで実施していくと挨拶を受けました。

来賓の中央本部加藤委員長からは我々は安全第一の観点でしっかりと職場を見つ、経営にもものを申ししていかなければいけない。年末手当について第2回交渉では、

第2四半期決算の営業収益はコロナ前の97%まで回復。会社からは営業収益はコロナ前に極めて近い数字になっているのは事実。しかし、営業利益はそこまでの水準には達していない。会社は業績を客観的に見る必要があると繰り返された。経営の業績は経営幹部が主体とならないで、誰が主体になるのか疑問である。3.7ヵ月勝ち取るためにも声を出し続ける事が重要と挨拶を受けました。

主な意見

- ・2日間、安全に特化して集中して訓練を受講できる環境は良いことだ。
- ・乗務兼務の管理者が2年に1回、訓練を受講しているか不透明である。
- ・乗務員コースで兼務者が車掌訓練を受講時、運転士の取扱いを説明しても訓練生は消化出来ない。
- ・乗務員コースという名称は現場に認識がない。運転士、車掌コースがあり、その中に兼務者が1人いる。運転士側、車掌側と行き来し、訓練を行っている。
- ・兼務者が来所持、乗務員コースで受講すると知らない訓練生もいる。
- ・現車が無く、シミュレータのみの訓練となる。乗務員コースでも中身は変わらない。
- ・現場ではここ1ヵ月で兼務者が増えている。
- ・乗務員コースで兼務者は1回の訓練で1名の募集をかけている。今後、兼務者が増加時、対応が出来ないのではないか。
- ・乗務員コースで運転士、車掌に腹落ちさせる訓練が出来ているのか検証が大切。
- ・副長が車掌乗務の頻度が高い職場もあり、要員が足りないと感じる。
- ・講師の数が少ない。転勤があっても補充されない。
- ・去年は車掌、今年は運転士訓練の欠席が多い。
- ・新任車掌研修で欠席が発生し、新たに緊急に研修日を設定する事になり苦労した。
- ・ある現場は勤務発表前に翌月の訓練はすべて欠席すると連絡があった。
- ・訓練欠席が多いのは訓練縛りが曖昧のため。運転適性検査のような縛りを付ければ欠席はなくなるのではないか。
- ・入所が2年以上空いた場合、問題にならないのか。
- ・シミュレータの故障が多い。今後もシミュレータを使用し訓練するのであれば、メンテナンスの予算をつけるべき。
- ・運転士、車掌指導員と連携を取って議論する事が必要ではないか。
- ・融合と連携と言われているが、現在の訓練で融合と連携が図れている訓練ではないか。
- ・訓練生の構成で60代と20代の時がある。若手から刺激を受け、その場で若手を指導し相乗効果が生まれている。

統括センター化の施策が進んでいます。今後は運車・営業部会と議論を深め、横のつながりを強化し、我々から安全風土を創りだそう！

次回 5月31日
開催予定